宗像
毎月一日発行
発行所
宗像大社
宗像会
福岡県宗像郡玄海町
電話玄海代②1311
定価一年送料共 500円

賀正

大復興事業を終え

久保宮司退任

後任宮司に葦津権宮司昇任

御挨拶

謹みて新年の御祝詞を申し上げます。

扨て私儀昭和三十四年以来宗像大社宮司としてご奉仕に勤めて参りましたが昨年懸案の大復興事業を無事完了することができましたのでこの機会に辞任させて頂くことと相成りました。

宮司在任中は公私共何かとご高配を賜わり衷心より厚く御礼申し上げます。

尚この際名誉宮司の待遇を蒙ることとなりましたので引続き余生を捧げたく存じますので今後とも宜敷くお願い申し上げます。

昭和四十八年一月

宗像大社名誉宮司　久保輝雄

謹みて初春の御祝詞を申し上げます。

扨て今般久保宮司には宗像大社復興事業の完成を機として御勇退され不肖私儀その後任に推されて昨年十一月三十日附宮司に就任いたしました。

固より浅学菲才の身その責務の重大に鑑み恐懼いたしておりますが誠心誠意奉仕いたしまて大方の御期待に応えたいと決意を新にしております。

就きましては何卒倍旧の御指導御鞭撻を賜りますよう切にお願い申し上げます。

昭和四十八年一月

宗像大社宮司　葦津嘉之

神具、装束
結婚式場用品
株式会社　井筒
九州店　福岡市吉塚一丁目三五番三号（〒八一三）電話福岡（〇九二）六五一九四五六番
本社　京都市下京区油小路六条北入（〒六〇〇）電話京都（〇七五）三四一・三三四一（代）〜四番　三五一・一三三四・六〇六六番

論説　春嶽讃仰

近頃、世相の複雑多様化につれて、その表現に種々の新語が製造されている。脱都会が孤島生活の言い訳となり、脱家庭が妻子を捨てて蒸発の動機となっている。この流に従えば、名利を超越して大局の進展に没頭する傑物があれば、脱名利でよかろう。

特に封建時代に於いて、脱名利の大名などは極めて少かった。無能でも権門勢家に生れると、労せずして優位安逸の生活ができたのだから、体制の変更革新には反対した。旧習を墨守して改造理念を抑えることが、自己を守る最上の方途と心得たのである。そうした身分でありながら、惰眠を貧らず自ら刻苦勉励して、利害を忘れ危険をも恐れず信念を貫く鉄石心は、よほどの偉傑であった。

幕末喧騒の世に、越前の藩主として文字通りそれを実践した人、松平春嶽、名は慶永、元別格官幣社福井神社の祭神。当時の二百六十余の大名中、異色の改造家として追想してみる。

春嶽は文政十一年（一八二八）徳川三卿の一人田安斉匡の六男として、江戸九段の田安邸内に生れた。幼名を錦之亟と呼び、少年の頃自ら羊堂と号したが、後年の親友であり同じ改進大名の旗頭でもあった山内容堂と、奇しくも似た点が思い合わされる。少年時代から名門の子としては稀な勉強家で、六才の時大学論語を読み、読書と習字のために多くの紙を使うのを羊と評されたところから、羊堂と自称したと、その随筆に述べている。凡庸なお坊っちゃんでない俊才の萌芽を、既に見せていたのである。

この漢学を通じて得た倫理観が、後年の至誠の指導者に成長する大きな糧となった。又一面その学識が、明治新政府の民部卿大蔵卿などの要職に就いた時、大学別当兼侍読に任ぜられて、明治天皇に十八史略などを御進講申し上げることにもなったのである。

天保九年（一八三八）福井藩主斉善の養嗣となって三十二万石の越前領主を継いだ。同十四年に越前に初入国した。時に十六才。彼の活気多感の青年期は、天保、弘化、嘉永と続き国情極めて多事を加え、藩政にのみ執心するを許さなかったのである。ペリーの再度の来航が端緒となった鎖国か開国かの論議、これに王政復古と打倒幕府の新機運の崛起が絡んで、一国の運命を左右する難問題山積の情勢に、否応なしに対処してゆかねばならなかったのである。

明君英主と賞揚される人物の事蹟に共通的に目に着くことは、人材の育成と俊才の登用である。殊に有能抜擢は内紛の虞もあって、私心情実を去った公正な処置がなければならない。安政二年藩校明道館を創設し、同四年には洋書習学所を増置し武芸所を拡充して、藩の子弟を文武両道に精進せしめた。これより先、当時としては珍しい藩営工場を設立してゲーベル銃の大量生産による新式銃隊の編成を企図した。一朝有事を予想しての準備である。勿論、藩政刷新のために多くの人材を登用したが、橋本左内・中根雪江・鈴木主税・村田氏寿等はその雄なる者で、後に幕府司直の追捕をうける者もその中にあった。伯楽名馬を知る。名君として春嶽を尊敬する青壮年藩士、殊に下級の有為の材に与えた刺戟は、実に強い影響をもたらしたに違いない。

安政と言えば、条約勅許問題を中心とする政争、将軍継嗣の擁立も拍車をかけて天下二分の深刻な対立は、容易ならぬものがあった。

改造家は大局を洞察した抱負を持たなければならない。彼が安政四年に幕府に提出した自主的開国論は、よく世界の大勢を観察した論断で幕府の要人を刺激する処甚大であったと云う。

桜田門外の事変で井伊大老が倒れて局面は一転、反直弼の徳川慶喜、山内豊信等とともに謹慎を解かれて大老に代る政事総裁職に任ぜられた。慶喜との良きコンビで数多の改革を断行した。彼の心底には、政権返上が不動の信念として護持されていた。それが時勢の赴くところであり、万民の安泰につながる方策と考えていたのである。宗家徳川が倒れ、自らも領主の地位を捨てる、それが改造家春嶽の至誠の結論であった。

庶民の福利を第一とする改造家に治病による済世がある。彼が西欧諸国の医学を学ばしめて、政事の傍ら、病患の救助に志した事蹟も大きく評価されている。

阿蒙少言

去年八月初め、東京でインドシナの平和と正義のための宗教者世界集会という名の国際会議が開かれた。キリスト教仏教の国際組織をはじめソ連モンゴール等の代表に、当事国の南北ベトナムやラオス愛国戦線等も加わって十四ケ国。就中アメリカからの宗教者二十三人が、自国の戦争政策を、生命の尊厳を侵し悪魔の非道を許すものとして非難攻撃し、ベトナム代表等の共感を高めた。これがその後国際的抗議行動に発展しつつある ○学問はもとより宗教にも国境はなく、人種を超越して正義を守る目的に一致を見るのは当然であろう。何々週間何々月間と名づけられたポスターが次々に現われる昨今、この宗教者会議も流行に倣ったわけでもなかろうが、当時「インドシナ人民を支援する国際統一行動月間」設定の決議となったと報じていた。宗教活動に月間や週間はおかしく、交通事故や火災の防止ポスターでお役所仕事が終るのと同様であってはならない ○ベトナムは遠い。彼の国民殊に少年少女がどんな悲惨な目を送っているか、わが国の子供達にはわかるまい。戦争の悲劇を教え平和な社会を守るために、長崎では原爆読本を作って児童の教育に用いている。被爆教師の会が中心になって編集したとか ○折々定例の戦友会合も行われる。きまって軍歌が合唱される。今どき高らかに軍歌をやるとは、時代逆行あるいは軍国主義と世代の違う若者に批判の声もあるが、戦場の想い出を楽しく味わっているのではない。凄絶な異国での野戦に倒れた友の霊を慰める気持が軍歌に誘う。戦争を最も忌む者は彼等であろう ○斗争の腕章が秩序を乱し、過激なプラカードが警察官を襲う。何でも反対抗争に持ってゆく姿に、果して国際平和を願うまじめさがあるか　（白雲）

謹んで新年の
御祝詞を
申上げます

昭和四十八年元旦
宗像大社宮司
葦津嘉之
他職員一同

宗像会員諸賢の
御清栄を遙かに
お祈り申上げます

「宗像」編輯部

1973

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

信頼のマーク TOYOTA

福岡のトヨタグループ

福岡トヨタ自動車株式会社
取締役社長　金子道雄
福岡市中央区渡辺通り4丁目9番25号　電話㈹76—3331

トヨタカローラ福岡株式会社
取締役社長　金子良嗣
福岡市中央区長浜2丁目1番5号　電話㈹77—7631

トヨタオート福岡株式会社
取締役社長　金子道雄
福岡市博多区大字竹下2丁目2の31　電話㈹41—5511

福岡トヨペット株式会社
代表取締役専務　中山準治郎
福岡市博多区東光1丁目6番13号　電話㈹41—1121

トヨタカローラ博多株式会社
取締役社長　久恒鉱造
福岡市博多区大字堅粕字小柳91　電話㈹44—2111

トヨタオート北九州株式会社
代表取締役専務　中村武文
北九州市八幡区黒崎大字熊手　電話㈹62—4931

久保宮司の御退任に際して

宗像大社宮司　葦津嘉之

昨年十一月三十日附を以て、久保宮司が御退任になられた。顧みまするに昭和三十四年一月十日附で当大社の宮司に御就任以来、今日迄の十四年の歳月は想像以上の多事多難の道でありました。

不肖私も同年六月に赴任しましたが、当時の社内事情は現今の宗像大社からは想像も出来ぬ程貧弱なもので、まったく手の下しようもない状態でありました。

当時の事務引継書を見ますと、年間の御社入の六割以上の負債を抱え、奉仕する神職は職舎もなく長屋の一室にどうにか雨露をしのいでいる情況で、参拝者も一日に十五〜六名位のものでした。今でも心に残っているのは、僅か七〜八名の職員の俸給を一度に渡す事が出来ず毎月二回に分けて支払っていましたが、それでも予定通りに支出が出来ず、経理を担当していた宇都宮祢宜が沈痛な面持ちで宮司室に参りますと、宮司は何処からともなく都合をつけておられたのを思い出します。このような状況であったからとかく、職員の気持も荒びがちでした。

その時に久保宮司が「神主は人々の幸福製造業だ、我々神に奉仕する者が幸福にならなければ、人々に幸福になるよう道を説く事は出来ぬ」と言われたことを思い出します。以後、職員の親和会が出来、また昼食は宮司以下全員が一緒に食事するようになったのであります。このような家族的な和の精神が実を結び、社内も次第に落着きを取り戻してきました。そしてまず最初に取り組んだのが借金の返済。紙一枚、筆一本も粗末にせぬよう全職員が節約に励んだ結果三年目には総ての負債を返済し、ここに晴天白日の輝やかしいスタートが始まったのであります。

神社の財政も次第に好転し長屋住いの職員も、木の香も新らしい一戸建の新職舎に入居するようになり、社内に活気が漲り、新らしい職員の数も増し今日の軌道がつくられたのであります。

やがて昭和三十八年には宝物館建設の計画が樹てられ、早速用地買収を始めました。当時神社東側の民有地約三千坪（現在の宝物館）の敷地を買収して建設を行うことになりましたが、当時としてはこの事業費は御社入金一ケ年分に相当する金額でありました。

そして再び苦しい借金と募財活動が始まったのであります。毎日毎日早朝から夜遅く迄、私も久保宮司にお供をして廻りましたが久保宮司は車中一度たりとも居眠りをされたことはありませんでした。

「毎日お疲れでしょうから暫くお休み下さい」と申上げても、「君も骨折って自動車の運転をしているのだから休むわけにはいかん」と優しく云われた言葉を今も忘れることが出来ません。この事業も昭和三十九年には久保宮司の献身的な御努力と御熱意によって多数の協賛者を得て美事に竣工したのであります。

この頃から着実な実績が稔り、御社頭の参詣者は増大の一途を辿るようになったのであります。お社の体制も整い企画研究室が設けられ、次々に新規事業が計画されました。神湊に屯宮の建設用地買収、続いて五月宮の用地買収、辺津宮境内の拡張、沖津宮の御屋根替えなど事業は順次遂行されて行きました。

昭和四十二年には神社の財政も五倍になり、愈々当大社長年の懸案であった大復興事業の具体的な計画が始まりました。この構想は昭和十七年に始まり、時局の変貌また社内体制の機が熟さず今迄延引した大計画であります。

まして総責任者である久保宮司にとっては、まさに命を懸けた大計画でありました。翌昭和四十三年には当大社出光佐三復興期成会長と一心同体になってこの事業計画の本格的な実践活動に取り組むことになりました。この事業は幸に宗像大神の御神慮と時人の和を得て、苦難の中にも順調な一歩を踏み出したのであります。全国に亘る募財活動は出光佐三会長を中心に予定通りに進捗し、諸計画は次々に進行して参りました。やがて昭和四十六年十一月十一日には待望久しい総ての諸事業を無事完了し、畏くも勅使をお迎えして四百年振りの盛大な遷宮祭が斎行されたのであります。

この時こそは久保宮司にとって苦難の中に築き上げた最良の日であったろうと推察申し上げる次第であります。これを機会に芽出度く辞任されることになり、我々職員一同一沫の不安と悲しみを感ずるのでありますが総ての大任を無事終えられたこの御心境を御察し申し上げ、私共も心から感謝の念をいだいて御勇退に同意した次第であります。

引続き不肖若輩の私が、後任の宮司として就任致すことになりましたが、幸にも久保宮司は名誉宮司として引続き御奉仕していただくことになりましたので、今後共旧来と変らぬ御指導を得て社務に専心致す所存であります。

新しき
木の香と共に去り給う
白髪の師の千代祈るかな
柴舟

門司宗像会の発足と推移

門司宗像会長　安部忠孝

明けまして御目出度う御座います。私共神郡に生を得まして永らく郷里を離れて色々の事業に活動して居ますと、常に念頭に浮ぶ故郷、ふるさと宗像、名物も名産も無かった宗像、其処で宗像人としての幼時を思い起させる第一のものに田島放生会がありましょう。

吉武村戸田山の分水嶺に源を発して神湊の川口まで約十五粁の釣川の流れに沿って走る長い堤を風呂敷包を肩に斜に掛けてお握りの梅干弁当を大事に何がしかのお小遣を手にし乍ら、秋空のもとを大声で校歌や軍歌を唄いながら楽しく列を作って友達と共に宗像神社に参拝した幼かりし日のあの思い出であります。

そして今私は門司宗像会長を仰せ付って居る者であります。門司宗像会初代の会長は出光興産の店主の出光佐三氏でした。それは昭和七年四月二十三日、宗像郡鐘崎の上八出身の山路虎夫と云う人が門司警察署長として門司に赴任された時の事でした。当時門司に居住して居た宗像出身の有志が集りまして山路氏の歓迎会を盛大に催す事になったのでした。和布苅公園内にある早鞆の瀬戸の潮の急流を眼下に見降せる枕潮閣と云う料亭に会場を交渉したところ、出席者が多いため一層此の機会に門司の宗像会を組織してはどうだろうかという話が急に決まりまして多数の賛成を得ましたので歓迎会と同日の昭和七年四月二十三日が門司宗像会の創立の日となったわけであります。

そして初代の会長に出光佐三氏、常任幹事に花田要一氏、書記には当時出光興産の社員であった上野亀太郎（後の上野商会社長）さんでした。そして第一回の懇親会を浪花町の万柱楼と云う処で催しました。会員は計六十二名で此れは会長と幹事も含んで居ります。因に当時の諸経費の一部を拾って見ると会費一回五十銭、年四回となって居り、席料十五円、門司券番よりの芸者五人分の花代三十八円二十五銭祝儀十八円折詰弁当料理一箱一円十銭等で如何に現代との経済状態の比較が異るか伺へて面白いと思います。

以上の記録は総て現在門司風師山麓に邸宅を構へ八十四才の余世を悠々自適されて居る花田要一氏の往時の綿密なる記録に依るものであります。花田氏は門司宗像会の生字引であり、白木清三氏と共に会の功労者でもあります。

出光佐三会長　第一期
（自昭和七年四月弐十参日創立　至昭和十九年三月）十二ヶ年間
此の間花田要一代行す

上野亀太郎会長　第二期
（自昭和二十八年五月　至昭和三十九年）十一年間

安部忠孝会長　第三期
（自昭和三十九年四月　至昭和四十七年十二月）八年間

昭和十九年三月から二十八年五月までの所謂、太平洋戦争中以後の休みの間は幹事の花田氏が代行して居られた。出光佐三氏は仲々の大人物で、当時の門司市長中野真吾氏、商工会議所会頭、久野勘助氏と共に三羽烏として並び称せられ、宗像会も仲々盛大でありました。

宗像郡人は殆んどの人が姻戚関係に於て繋りがありまして、誰の父さんが自分の父と縁があり、誰の嫁は自分の弟の家から出て居り、内の家内は誰々の姉妹で何んとかで皆な何処かで繋って居る。亦ある人はあの家の子供は自分が教えた事があるので心易いと云う具合で非常になにか宗像全体が一つの家族であると云う感じが致しました。郡としては名物や名産が無かった為、人物の養生に力を入れられたのでしょう。

それで出光氏が城山の山麓に学芸大学を誘致されて此の神郡宗像に於て将来の日本を背負って立つ青少年達の教育を司る教師を養成され、城山のもつ自然の荘厳さと宗像神社のある崇高な土地に立派な日本の未来の担手達を育てる気持ちで、いち早く敗戦当時の索漠たる思想を持った国民を救わんとされたその識見の偉大さは実に見上げたものがあります。日本のために吾々国民の為に、斯くも立派な世界的大先輩を持った事に宗像人として無限の誇りと悦びを感じる者であります。

終

郷土懐古　宗像の農耕儀礼 (12)

—宮座 その十　田島

こしき祭という。古式祭か。宮座のこと。宮座は至って矢釜しい。田島様（宗像神社）中心にして田島を四組にわけてやる。その組の配置は面白い。田島の地付氏子である山下組、土橋組、上殿、片脇。その所属がむづかしい。

各組が交代で当番になる。その御馳走むきが変っているので県知事が面白がった。器具神饌などの道具を組組で持っていた。今は共通にした。お宮にはその記録がある。遠賀あたりから来るのも定まっている。前の晩から来る者もあった。外からは米一升を持ってきた。（深田澄之輔氏談）

名見

昔の宮座は田野に五十軒の株があった。この株を持っていたのは威張っていた。席につく時でも大いに順序があった。女は当番のこしらえはしたが席には出れなかった。宮田というて田地の二反ももっていた。今はやらない。昔は小宮座もあった。今は部落全体で男家二十五軒でお宮座をしている。（山口琴次郎氏談）

今井原

宮座は門前と今井原とが一緒でやった。昔は上八で田に舞台をかけてやった。庭の広いところでは庭でやった。百五十人加わったこともある。織幡宮の宮座は四月十六日にある。他村からも来る。もとは上八あたりも当番になっていた。十三部落あるので十三年振りに廻ってきた。今は鐘崎だけである。（花田三衛門氏談）

祓川

宮座は旧九月一日。祓川が上と下との組合に分る。昔は一緒にやったらしい。明治十二年頃からの帳面がある。当番の家でやる。上下の当番が神官と共に織幡宮に参る。新穀を祓川部落から三升三合あげる。それで祓川及び岬村全体の御供米になる。座にすわる順序はきまっていない。御馳走はきまっている。神田はない。

〈くづはら様〉は神田をもってござる。それはなくなったが、個人持で〈くづはら谷〉という名前はある。（入江恵壮氏談）

渡

宮座は旧正月二十四日。祈年祭である。百戸を北中南の三組に別つ。それで三年に一度組に廻ってきた。そのときの宮田の耕作はすべて当番の組合で十俵できた。宮田には肥しは入れなかった。田植えの時は神職が祓うて植付けをしていた。三十軒余り殆んど家中出ていた。田の草も全部で取った。

六斗三升の俵を作って御供米にした。これを担ぎあげる者は少かった。祓をして貰うて保存し二十二日頃から米搗きに青年なども出て二十三日は総がかりで二組を招待する用意をする。二十四日の御座（楯崎神社）の御膳据りに行った。これは本膳で酒は沢山飲んだ。年中行事中最も盛大であった。二十五二十六二十七日頃まで当番元は賑っていた。その後一時衰えていたが占部太平さんが田地を一反上げてまた盛大になった。

今では三組に分けてやるが一組十円の投げ渡し、また余米の残りは基金としている。宮田は深田で牛の入らぬ田だったので田打ちして植付けの時斉戒沐浴してやった。神官が祓いをした。

ここは遊び手（ばくち打ち）多く祭をあてに集ってきた。平生やらぬ婆さん爺さんもやった。平生忙しい者は働き越して遊ばさせる。

宮座の順序は高座は年長順によった。楯崎神社の三月十五六日の例祭には近郷よりの参拝多し。また新米を食ぶるときは必ず神社に参る。（花田国松氏談）

なお筑前の農耕儀礼の〈聞書き〉の中でも触れたし宗像の宮座については後の諸部落の〈聞書き〉の中にも別に記しておいた。

—古野先生著書より

1973

交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡日産自動車株式会社
取締役社長　安藤信夫
福岡市博多区千代町2丁目61番5号
電話㈹64－3161

福岡日産モーター株式会社
取締役社長　原口孝彦
福岡市博多区東比恵2丁目14－33
電話㈹41－6631

日産プリンス福岡販売株式会社
取締役社長　岩永政定
福岡市中央区平尾3丁目5－3
電話㈹53－9561

NISSAN

――今年も安全運転を心掛けて下さい――

日産サニー福岡販売株式会社
取締役社長　茅原茂
福岡市博多区東光寺深町217番地
電話㈹41－4132

日産チェリー福岡販売株式会社
取締役社長　広田豊
福岡市博多区東光寺深町224番地
電話㈹41－2764

日産サニー北九州販売株式会社
取締役社長　菊竹保平
北九州市八幡区穴生字古作浜
電話㈹621－2136

日産ディーゼル福岡販売株式会社
取締役社長　山内敬一
福岡市博多区榎田1丁目4番3
電話㈹41－1831

吉武老人クラブ

郡内施設見学の記

吉武長生会々員百二十余名は、近年の老人福祉の高揚に対処して我々自らが大いに勉強して日進月歩の社会に遅れないように、そして世の為人の為に少しでもお役に立とう、という積極的姿勢から宗像町を除く郡内の施設見学を行なった。

十一月二十日午前八時半児童館前を二台のバスに分乗して出発し、先づ福間町手光の福間清掃工場に着く。ここは宗像町外六カ町じん芥も此処で処理されるのである。ガラス瓶やプリキ製空缶などの不燃物が混じっていて困ることもときかされて、お彼ちゃん達も注意しなければと囁き合う。

次に福岡県厚生年金経営のスポーツセンターに行く。ここは一万人を収容できるという水泳場内各種競技施設に驚く。来年三月には「老人の家」がこの隣地に建設されることも会員には極めて魅力のある話であった。

ここを辞してバスは海岸新道路を走り、津屋崎海岸にある九州大学水産実験所に着き、水族館の見学を許可される。津屋崎近海の魚類の外、貝殻、海藻などの標本類も多く、興味深いものがあった。眺望絶景の東郷公園にはバスが登れないのでここからの遠望にとどめて玄海町に向う。

宗像大社に着くと、大祈願殿に参入し会員の長寿並に交通安全の祈願を受ける。続いて各自本殿に参拝して敬神の念を新にする。神社側の御厚意による湯茶の接待で、清明殿にて昼食弁当をひらき舌鼓を打つ。境内に催されている大菊花展の観賞、宝物館に沖ノ島学術調査によって発掘された千三四百年前に神前に供えられた数々の祭祀品に遠い昔を偲びつつ説明をきく。

次いで鎮国寺に向かう。此処では弘法大師、伝教大師作と伝えられる国宝仏像などを拝観し、深いみどりの静寂に包まれる境内に宗教的雰囲気を感じさせられる。

最後に江口にある玄海みかん選果場に到り、楽しくしかも有益なバスの研修旅行を過ごしたのであった。（吉武老人クラブ会長立石昇記）

話題の新車をみる（六）

ニュー・スカイラインの巻

日産は先頃、スカイラインシリーズをフルモデルチェンジして好を競うということになったわけである。

中でも、スカイラインのキャラクターは、これら三車種に於て最もスポーティな需要層に応えるもので、シリーズ中の最高車種とまでいわれている。

ここで内にし、スカイラインの歴史について触れてみたい。

誕生は、昭和三十二年。当時の富士精密工業（プリンス自動車の前身）が技術の全てを傾注して製作した画期的な乗用車に〝スカイライン〟なる栄光のネーミングを冠して発売。

昭和三十八年には、用途をオーナーカーに絞った第二弾を放った。

昭和四十一年夏、プリンスは日産自動車と合併、三代目（旧C10型）がその年の秋に生誕。プリンス時代の高性能を更に昇華させて大ヒット。中でも二〇〇GTは〝スカイG〟の愛称で呼ばれ高速時代のエースの存在にのしあがった。

そして、今度、前車のモデルが陳腐化したとは思われないが、四度目のフルチェンジを敢行。新C二〇型スカイラインは一段と大きく生れ変わり、ダイナミック且つソフティーに一新された。

同社のコメントによればニューシリーズのその設計主眼は、①一年夏、プリンス人間尊重の商品 ②時代との調和の中で特徴を維持したスタイル ③積極的な公害対策 ④高い信頼性 ⑤秀れた高性能等と述べている。

扨て、ニュースカイラインのバリエーションは旧一五〇〇ccがなくなり、代って新たに一六〇〇cc車が追加。基本機能は十七で呼ばれ高速時代のエースの存在組合せると、実に三十七種になった。

エンジンは、温存的なファストバックに従来定評のあったG一八型、L二〇型に、新開発のG一六型（一六〇〇cc）が加わっている。

公害対策として（1）クランクケース・ストレージ方式の燃料蒸発防止やブローバイガス還元装置、また（2）吸気加熱装置の強化によるアイシング対策や、（3）バルブオイルシールの改善による燃費の向上が計られている。

〝かっ〟の荒々しさを秘めたマシン、軽快なスポーツムードはなくなり、むしろずっしりとした重厚感をもち、まさにファニチュア（家具）としての要素がつよいと云えよう。

寿会発足す

―復興を機に―

宗像大社の復興事業も昨年の秋に完了し、御本殿修復と神域の整備によって往古の荘厳なたたずまいに復元された。

これを機会に当社の祭祀に最非とも協力をしたいという申し出があって福岡市と北九州市の中から心ある方々が集い、ここに「寿会」という名の会が発足した。その発会式が先頃当社殿において盛大に執り行なわれた。

又秋季大祭のみなら祭では宮幕の奉納式も行なった。

発会の祭典終了後、斎館において発会式の挨拶、幕奉納の御礼等があって直会に移った。

会員一同和やかに語らい親睦を深めた。そして最後に寿会の発展並に会員相互の健康と弥栄を祈り乾盃で散会となった。

当社では会員の各家庭に毎月一日の月次祭に併せて会員の皆様の日常の安全、家運隆昌と繁栄を祈って月次御幣を謹送している。

社務日誌抄

十二月一日
宗像署、記者クラブ参拝
四日
氏子評議員会並大麻領布式
六日
責任役員会開催
八日
宗像海運参拝
十一日
国鉄博多運輸長他参拝
十五日
古式祭並鎮火祭斎行
十六日
郡内小学校長参拝
二十一日
新旧宮司歓送迎会開催

酒処

「楢の露」本舗勝屋酒造の巻

当宗像大社は酒造りの神としても世に知られている。この酒造守護神としてのお告にかんがみ郡内の酒造会社を訪ね連載することにした。

扨て初回は勝屋酒造合名会社「楢の露」の巻。社屋は宗像郡宗像町赤間の中心地にあり慶応年間山本本家が城山山麓の天然の水と地元の良質米貢米を原料として酒造業を創設した。創業を開始した数年後政状混乱し、百姓一揆の暴徒に乱入され、倉中の酒樽を破られ酒が流出し休業のやむなきに致り、当時柱についた槍の傷が大正の始め頃まで残っていたという。

このような世情のため約二年間休造し、その間は年貢米を上方面に毎年三千俵近く出荷したりしていた。そして明治三十年山本本家の親戚筋に当った玄海町田島の酒造会社を譲受し再興した。

田中仲吉氏に経営を譲渡し再興した田中氏亡き後再び山本本家が経営し、今日に至っている。

商標「楢の露」は当社の御神木「楢の木」から名前を頂いているがこれは田中仲吉氏が「勝屋」を経営していた時不幸にも柱氏の勧めが狂い、五十石の原酒を腐敗せてしまい窮地におちいった。田中氏は悩み苦しんだが氏神であり深く信仰していた当宗像大社にその祈願をしたところ神護の甲斐あって無事窮地を脱する事ができた。この御礼の意味をもって大神様に永代の献酒をちかい「楢の露」を登録商標とし御垣内にある御神木の脇に誓詞の碑を建立したのである。又毎年四月十九日当社の末社である松尾神社に於て春のおん祭りをし、酒倉及び従業員の安全と酒造の無事祈願が続いている。

この「楢の露」は本年度の福岡国税局（北九州三県）新酒品評会に於て数少い最高位金賞入賞の栄誉を受けた。これは米、水等の原料の良質はさることながらそれにも増して会社の昔ながらの手作りの製法と杜氏の方々の技術で醸成された結果であろう。今後もたゆまぬ研鑽を重ね宗像の酒「楢の露」を醸造していただきたい。

「楢の露」造石高 二五〇〇石
販路 福岡県内及び大分県内
級別 特級・一級・二級・蔵酒（米だけの酒、完全無添加酒）
容器 ビン詰（一二六ml・一合・三〇〇ml・七二〇ml・一ℓ・一升）
贈答 箱包（一升・二升・三升・五升・一斗・二斗・四斗）

賀春
松尚開発株式会社
福岡国際カントリークラブ
西日本最大のチャンピオンコース
福岡県宗像郡宗像町朝町
電話②三五四四・三五五四番

年賀新年謹賀
白砂青松の中に
玄界灘を望む
玄海ゴルフ場
福岡県宗像郡玄海町
電話宗像代表②二三六七番

1973
交通安全宗像大社の　御神徳をたたえ奉りて
謹んで新年の御祝詞を申し上げます

福岡いすゞ自動車株式会社
取締役社長　渡辺藤吉
福岡市博多区東比恵三丁目十六番二十三号
電話代表㊶一五三一番

福岡ダイハツ販売株式会社
代表取締役　内山学
福岡市博多区東比恵四丁目十番十一号
電話代表㊶一三三一番

株式会社マツダオート福岡
取締役社長　西亦次郎
福岡市博多区東比恵四丁目九番十二号
電話代表㊶六〇三一―九番

福岡日野自動車株式会社
取締役社長　植竹陽介
福岡市堅粕御塔後一三九五番地
電話大代表㊸一一七一番

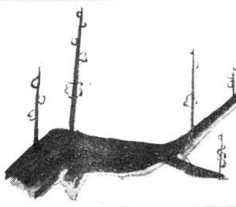
九州三菱ふそう自動車販売株式会社
取締役社長　早川彰
福岡市東区大字箱崎高麗町四一三一の一番地
電話代表㊸八一八一番

九州三菱自動車販売株式会社
取締役社長　西崎克己
福岡市中央区薬院三丁目二番二十三号
電話大代表㊷一四一一番

福岡スバル自動車株式会社
取締役社長　中井隆
福岡市博多区東光一丁目六番八号
電話代表㊶八一三一番

宗像大社歌会 俳句作品集（三〇）

宮田竹雨　放生会お戯しみじみ老婆あり
吉留伊豆湧泉　鉱石船着き洞海の月見草
福岡入江柳江　秋雨や畳のすみの捨て碁石
大井吉田和子　蝦夷富士の暮色に残るなゝかまど
八幡佐藤市五郎　廻り来し冬はいやだよ九十日
大井安部重郎　なすこともなくて暮れけり日の短か
東京小浦太平　神郡と伝うふるさと初日射す
東京小浦濠介　海峡を扼し恵方の神の島
土穴八尋恒夫　敬老日人のようにて我がことか
津屋崎菱花女　東郷碑そそり立つ天鰯雲
平等寺中野きみ　参道に照葉貼りつく初時雨
田熊安部ゆき　猫丸く天下泰平日向ぼこ
田島有吉唐水　咳入れば物皆寂し冬の夜半
大井木原ふさ子　静寂を刻みし寛紅葉寺
大井吉田ますみ　冬菊や子等皆去りて夫と吾れ



宗像神社沖津宮祭祀遺跡

昭和四十四年度調査報告

沖ノ島

下限は八世紀代にまで及ぶであろうが、この時期に今の沖津宮社殿の地に社が出現することになったと思われる公算が大きく、わが国神道の流れからみて、巨岩祭祀から社殿祭祀への転換期として重要な意義をもった時期ではなかろうか。

(4)露天における祭祀

一号遺跡の祭祀に代表されるもので、露天に広大な祭場を設け、おびただしい量の須恵器を奉献した祭祀である。奈良三彩、皇朝銭（富寿神宝）、滑石製形代（人・馬・舟）の発見で特徴づけられるもので、古代における沖ノ島祭祀遺跡の終末を飾るものである。八世紀にはじまり九世紀前半代に及んでいる。

以上によって沖ノ島祭祀遺跡の初源から終末における各時期の祭祀形態の変遷と奉献品の推移の大要を明らかにすることができた。第三次調査における新知見は六世紀以降の沖ノ島祭祀の実態を考古学的に明らかにできた点にあろう。

二、先史遺跡

イ、社務所前縄文・弥生遺跡

沖ノ島の社務所前に縄文時代・弥生時代の生活遺跡が存在する事は前回の発掘調査において既に明らかであった。今回は縄文・弥生時代の確実な遺物包含層・遺構を確認すべく旧社務所南西の傾斜のなだらかな平坦部をねらって六ケ所に一㎡のグリッドを総計十五個設けて実施した。その結果、旧社務所の南にある三ケ所のグリッドと西側のそれとでは地層の堆積状況、遺物の出土状態・時期が異なっている事が判明した。これは社務所前の地形に起因するものと考えられる。すなわち南側は小さな谷を形成している個所に立地するのに対し、西側は北より延びている舌状台地の先端部に位置するのである。この西側では表土層直下の黒褐色土層より弥生時代の遺物を全く混えず、縄文時代前期と考えられる土器片を中心とした遺物包含層が見られる。これに対して谷を占地している南側では七〇～一一〇cmの厚い攪乱層がまず存在し、その直下の粘土層と共に弥生時代・縄文時代の土器片・石器類が混在して出土しており近世の地均し工事や周辺よりの流れ込みによる攪乱が考えられるのである。さらに下層の粘土層に至ってはじめて弥生時代後期と縄文時代晩期のプライマリーな包含層が層位的に検出されるという状況を示すのである。

〔縄文時代遺物〕縄文土器は概観すると、西側調査区における前期を中心とする時期と南側の弥生時代後期の下層において出土した晩期の時期とが考えられるのである。前期の土器片は細い箆による平行短線、羽状文等を有するものが出土し、これらは従来「曽畑式土器」と呼称されているものである。他に爪形文・刺突文・列点文・沈線文それに隆起帯文等を文様の中心的モチーフとするいわゆる瀬戸内系の縄文時代前期を想起せしめるものなどが主体的存在であるように思われる。しかしながら包含層の状態は必らずしも良好とは言えず土器片の出土総数も多くなく、しかも細片であるため形式名や時期の認定に困難をともなうので今後十分な検討を要する。これらの土器群に伴うと考えられる石器・剥片類は比較的多く、なかでも石鏃は量的にまさり形態的にもバラエティに富んでいる。石質の面で大分県の姫島産と肉眼的に観察される乳白色をした黒耀石製石器・石片の多量の存在は瀬戸内系の土器と共に注目すべき興味ある問題を提起している。石鏃の他に横型石鎚、スクレーパー、石錘、敲石、磨石などが出土している。特記すべきものとして数点の石話が検出されており、沖ノ島という遺跡の立地を如実に反映している石器と見なすことができよう。

晩期の土器は口縁部が外反し頸部に「く」の字形屈曲をもつ薄手で黒色に研磨された浅鉢土器と広口で頸部がしまり、リボン状の凸帯を附着し胴部に「く」の字形屈曲をもつ粗製深鉢形土器がセットの主体を占めるようである。これらの土器は晩期Ⅱ式（従来「黒川式」と呼ばれている土器）に近似しており、時期的に晩期中葉に位置づけられるものと考える。晩期の包含層より出土した石器類は極めて少ないが、黒耀石製の彫器（Craver）一点は貴重な資料と言えよう。

ロ、〔弥生時代遺物〕南側調査区の黒褐色土層（Ⅱ層）では、弥生時代後期の土器が主体となり、それに前期、中期及び縄文前後の土器が混在して出土した。（つづく）

二宮佐天茲主人 四島一二三伝

―原田種夫著―

「おい、お前いくつ殴ったか」
「おれは一つ殴った」
「おれは三つぴんたを張ってやった」
「おれは五つ頭を思いきり殴りとばした」

闇の中で面白そうに青年たちが殴った数を自慢し合い、大きい声で哄するのがわかった。四島青年は怒りに全身が慓えだし、痛さを忘れた。

「だいたい、市次の野郎は生意気だ。あいつを懲りさせるために、酒二升と肉を買わせよう」
「それがええ、それがええ」
「誰か代表であした市次ん処へ行ってくれ」
「よしおれが行こう」

誰かが昂然とそういった。

「よかろう、お前一人が代表として行って酒二升と肉を買わしてくれ」

そういう決議が闇の中でまとまった。じっとそれを聞いていた四島青年は、益々怒りを発した。

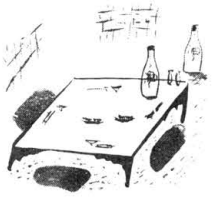
「誰が酒や肉を買うものか、馬鹿にするな」

ぜったいにかれらの申し出には応じないで断乎として拒絶しようと強く決心をした。

翌日になると、果して若者宿の仲間の一人が四島青年の家にやって来た。そして、昨夜の決議通りに、酒二升と肉を買えと申し入れた。四島青年は、その青年と向き合った。

「おれは、十四、五人相手の喧嘩ではどうしても負ける。しかし一人一人の喧嘩ならぜったいに負けはせんぞ。来るならいつでもかかって来い」

と勇ましい啖呵を切った。相手は四島青年の気迫に圧されてたじたじとなった。



「どうだ、一人一人かかって来い」

いまにも殴りつけようとする身の構えになった。相手はその勢に呑まれて、後に一、二歩下がった。

「よしわかった。市次、お前のいう通りじゃ。もう酒と肉を買わんでよい。たった一人を皆で殴りつけたのはおれたちが悪かった。卑怯といわれてもしようがない。おれから皆に話すことにする」

そういって使いの青年は帰ったが、しばらくして、詫びの印だ、といって酒一升を届けて来た。それ以後、村の青年は四島青年をよけて通るようになった。四島青年の気迫の烈しさに圧倒されてしまったのである。この一件で「やれば何でもやれる」という自信が四島青年についたということだ。ついでながら、その女性のことを書けば、その人は後に南米ブラジルに嫁いでいって成功したということを、在米中に氏は耳にしたそうである。

アメリカへ渡ろうと駄々をこねる四島青年には両親も兄たちも手を焼いてしまった。ぜったいに渡米させまいと考えていた両親も、いくらか軟化しかけていたのであった。ある時、飲めもしない酒を呑んで泥酔してぐにゃぐにゃになっていた四島青年が、

〈酒は飲め飲めボイラで沸かせ
噴き出る煙がまっ黒けのけ

と呂律の廻らぬ舌で唄いだした。どうしてもアメリカへやってくれという、四島青年の一つのデモでもあった。

それをじっと見ていた父の久五郎氏は、もしアメリカにやらねば自棄を起こしてどんなことになるかわからない、もうしようがない、望みどおりにアメリカへ出してやろう決心したということだ。

明治三十年、即ち、四島青年が十七才の秋いよいよ待望のアメリカへの渡航が実現することになった。その頃渡航の理由は、すべて勉学のために海外に出るということにしないと許可されなかった。（つづく）

第三六回 宗像大社歌会詠草

毎月十五日〆切　詠草到着順

福岡桜井ツ子　簌らんのやや に過ぎたる花かげを鎌の置処ときめて下刈る
宮田片山朔子　難聴となりたるも君征きし故と詰りいたりし夢の中我が
大井木原ふさ子　訪い来れば時雨れて昏き宗生寺静寂刻みし覚さびしも
津屋崎占部由久　矢の如く過ぐる月日や時のまに今年も終りの月となりけり
武丸立石ろせの　帰りゆく客を見送り縁近き日向に一人素足をのばす
宗像中村幸　小学校の歌声きくは常なるに訪ひきし友のいたく喜ぶ
大井吉田ますみ　人の世のなさけうれしきまねかれて小春の一日密柑がりする
宗像河村久光　散りゆきし樹木の枝にこがらしのヒユヒユ鳴いてバスは近づく
八幡佐藤市五郎　波騒ぐ島を離れて洞海日老を忘れて神を守らむ
宮田北原君子　子の帰り待ちて机に向いをり太き語字にも眼のかすみ来ぬ
津屋崎菱花女　教え児の同級会に招かれて五十余年経し共に老ひたり
大井安部重郎　つれづれに祖母のもらせし言葉など思ひいだせることも多かり
大井安部静子　余りにも世の変遷の激しさにとまどひつつも古稀を迎へし
戸畑田中桂一　理事会に失言でなきやと思ひつつライトに射られ吾にかへりぬ
戸畑田中ハツセ　紅絹裏も未だそのままの吾が晴着娘にゆづらむと時期を待ちをり
津屋崎麦野時雄　瀬戸内のかずかずの島拾いつつわがゼット機は矢の如く航く
東郷藤崎辰子　冷蔵庫の奥にて姿び細りたる冬のかぶらが三つ出で来ぬ
田久小方実　日本を動かすやうな大政治家出でよ立合演説始まるを待つ
宮田片山一　団地より流るる門の橋の下淀めるあたりメダカ列なす
曲天野トモエ　猟銃のひびきいたわし山鳥の巣と名づくわが里の森
深田中野節子　雪止めの角材置ける屋根ひかり旅終へむ日の町を見さくる
福岡吉田信夫　祈るとは願ひにあらず感謝そと教えし人の言葉噛みしむ
吉武早川須磨　帰り遅き老夫気使う夜の炬燿時雨はげしく屋根たたきゆく
原町八波五月　土産待つ娘も嫁づきてただひとりひそかに夫の待つ灯見ゆ
武丸原田リノ　月夜まで待てば甘さの戻る柿一口かみて誰か捨てをり
名残竹原圓　二人住む麓の家の切り炬燿先ず繕いて冬を迎へむ
徳重石松やす子　詣で来しよろづの人の立去りて神苑はもとの静寂となり
大井吉田和子　つながれし仔熊両手にコーラ持ち飲むさま愛らしアイヌの部落
田島吉武武雄　爆竹をならして祝ふ中国の元旦偲び柏手を打つ
田熊鷲津かつ代　還暦を過ぎて幾たびしみじみといただきて取る年祝の箸
田久立花勇雄　手土産の菓子折供へ仏前に合掌しおり久に来し娘が

新年おめでとうございます

○玄海国定公園の中心……風光明媚……生魚料理……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合

あけぼの荘　電話神湊66番
高嘉旅館　電話神湊50番
千成旅館　電話神湊6055番
望波亭　電話神湊111番
千鳥荘　電話神湊68番
玄海旅館　電話神湊193番
大島屋旅館　電話神湊31番
魚屋旅館　電話神湊22番
喜楽旅館　電話神湊19番
みなと荘　電話神湊56番
松風荘　電話神湊120番
友楽旅館　電話神湊6114番
泉館旅館　電話神湊35番
玄洋荘　電話神湊172番
川口屋旅館　電話神湊48番
勝浦荘　電話神湊6170番
はま荘　電話神湊275番
福乃井　電話神湊295番